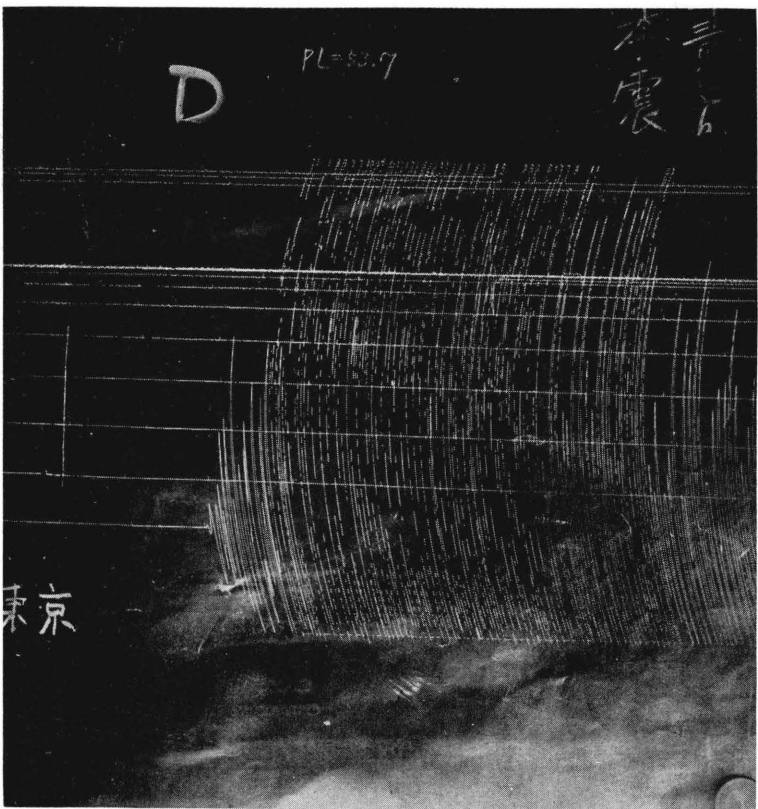
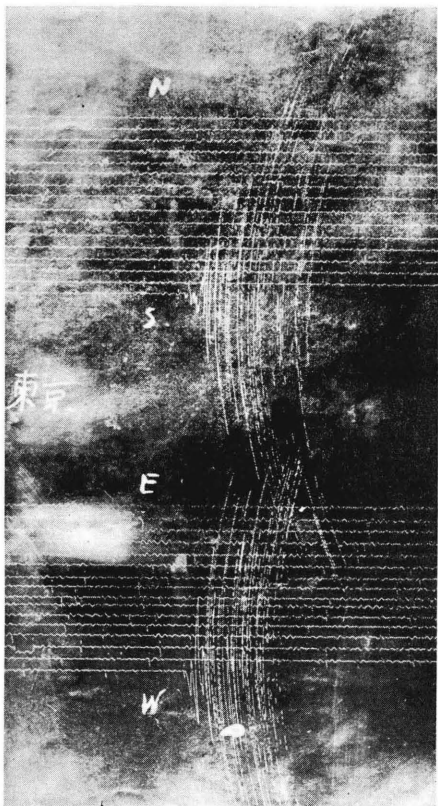


國富報文附圖第九十九頁參照

北丹後烈震地震計記象(其の一)

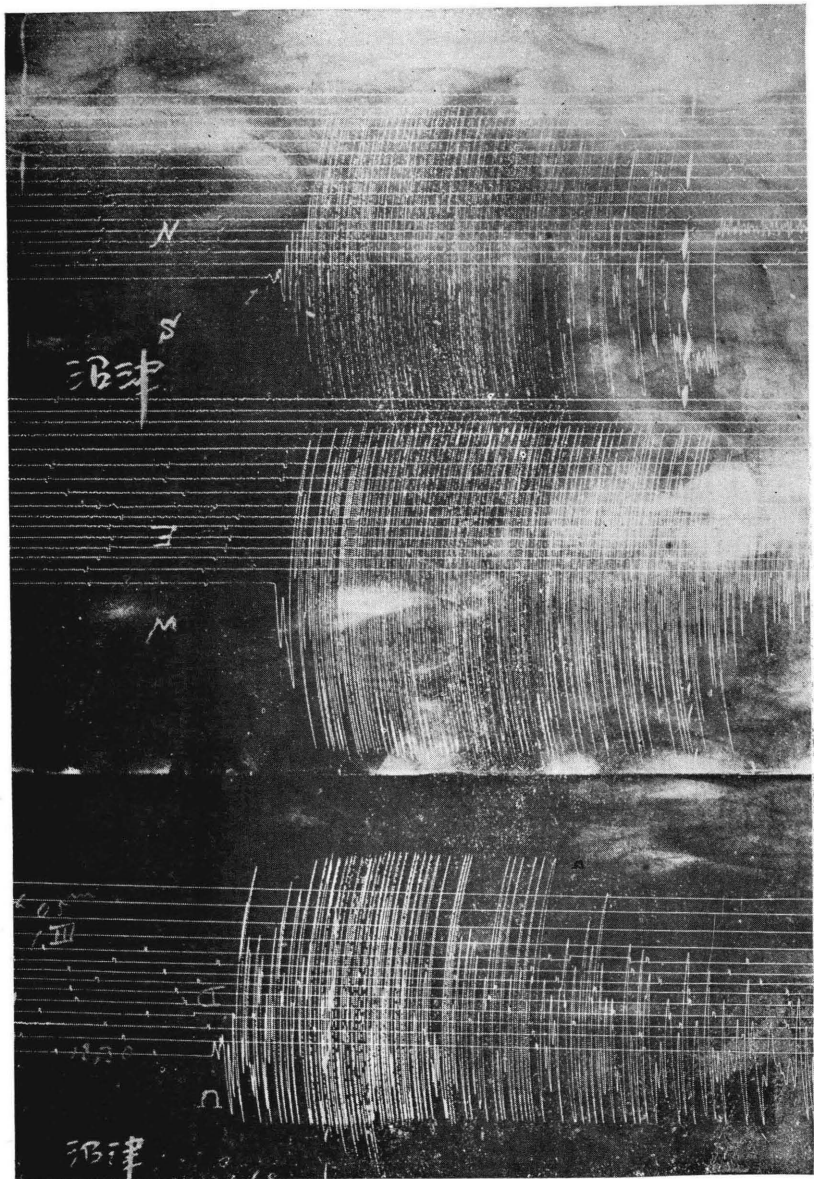
中央氣象臺ヅキーヘルト式微動計記象

(上水平動〇・五三二に縮小)
(下垂直動〇・五九二に縮小)



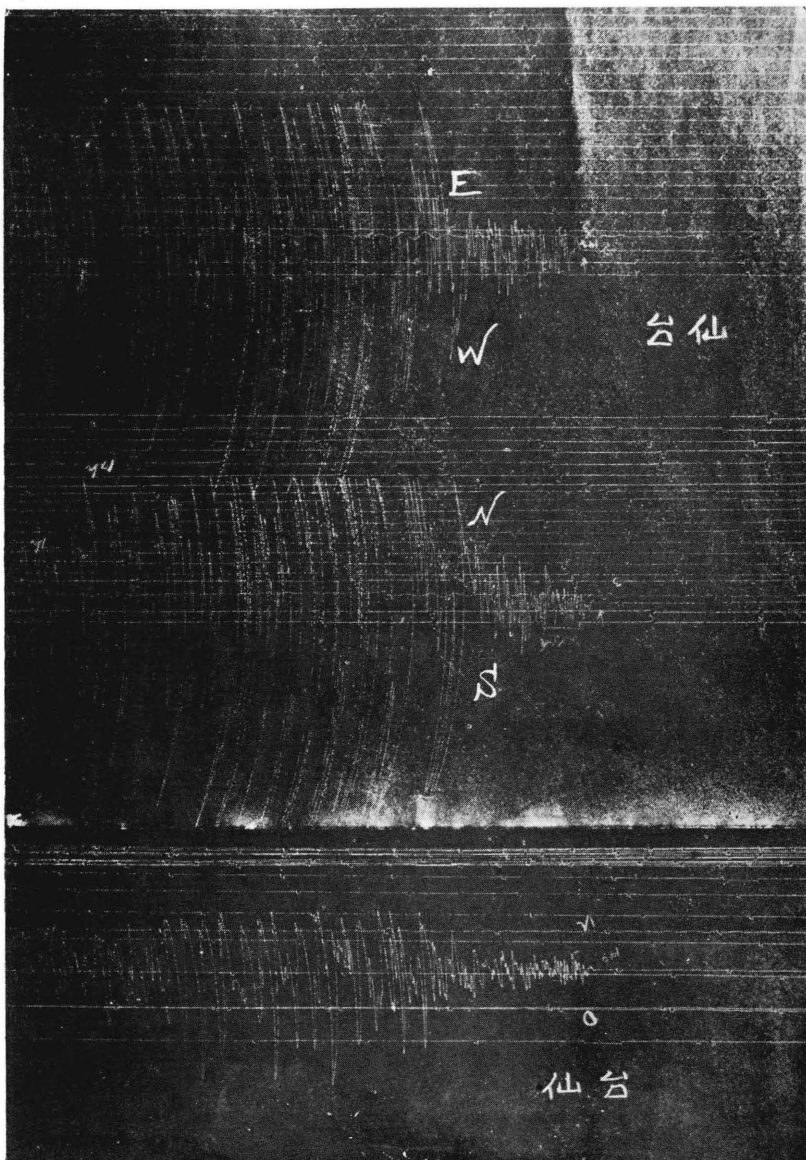
北丹後烈震地震計記象(其の二)

沼津測候所ダキヘルト式微動計記象(〇・五四に縮小)

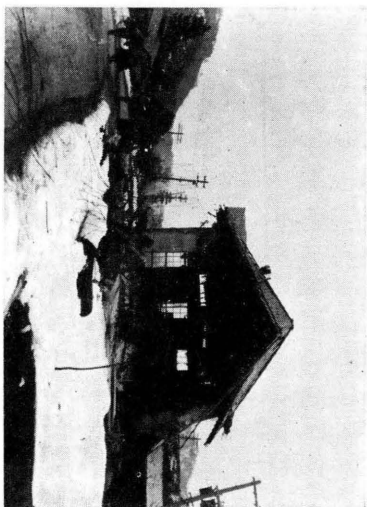


北丹後烈震地震計記象(其の三)

石巻測候所仙臺出張所ゲキーヘルト式微動計記象(〇・五三八に縮小)

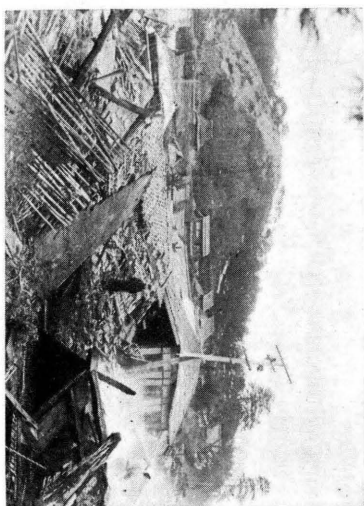


國富報文附圖第九十九頁參照



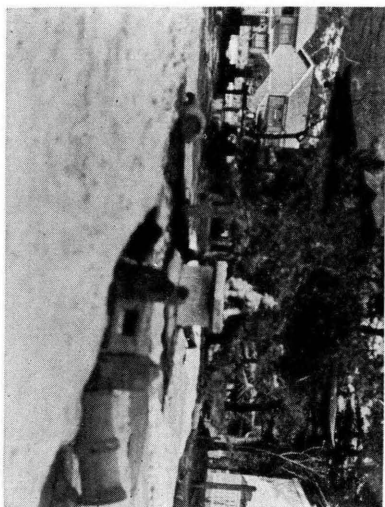
四辻變電所附近の被害

第一圖



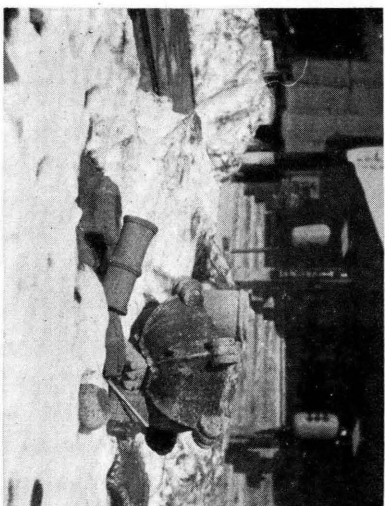
岩瀨の被害狀態

第三圖



宮津町大神宮境内石燈籠の倒潰

第二圖



天橋立切波文珠石燈籠倒潰

第四圖

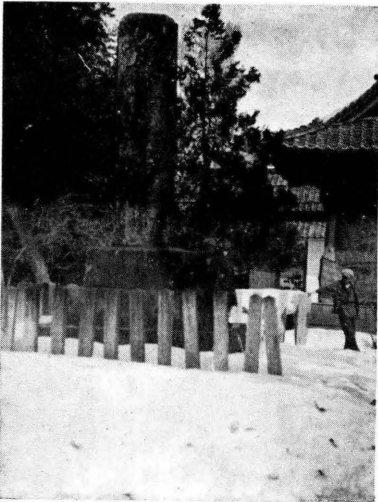
第五圖

日置村日蓮宗寺院山門の變位



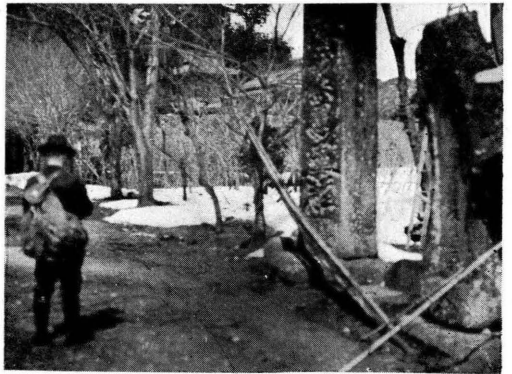
第七圖

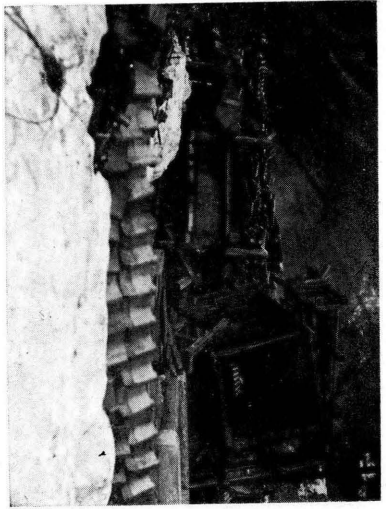
日置村大法塔の回轉



第六圖

日置村小法塔の回轉





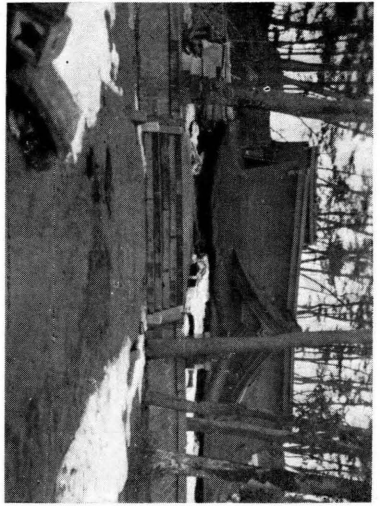
第八圖
峯山町天神宮の軀倒



第十圖
峯山町金比羅宮鳥居の倒潰



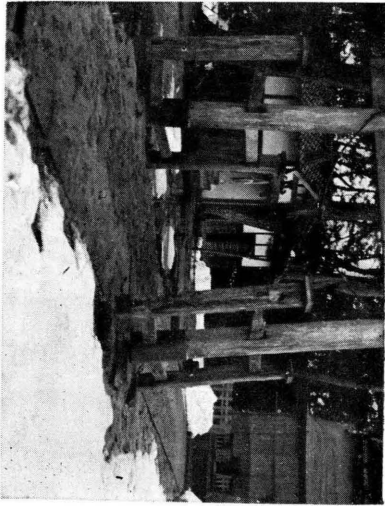
第九圖
焼失せる峯山町の一部



第十一圖
網野神社拜殿の倒潰



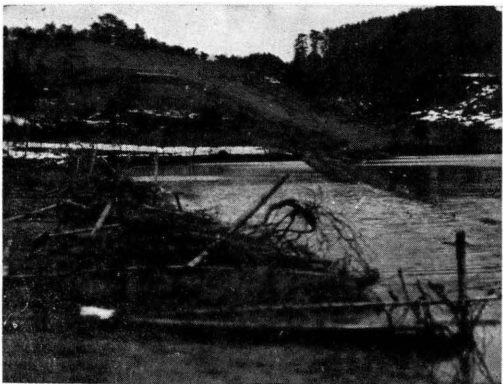
第十三圖
灘湖々畔の地蔵



第十二圖
網野神社鳥居の礎石

第十四圖

島津村三本松峠の山津浪(其の一)



第十五圖

島津村三本松峠の山津浪(其の二)



第十六圖

島津村三本松峠の山津浪(其の三)



第十七圖

上山田の人家倒潰



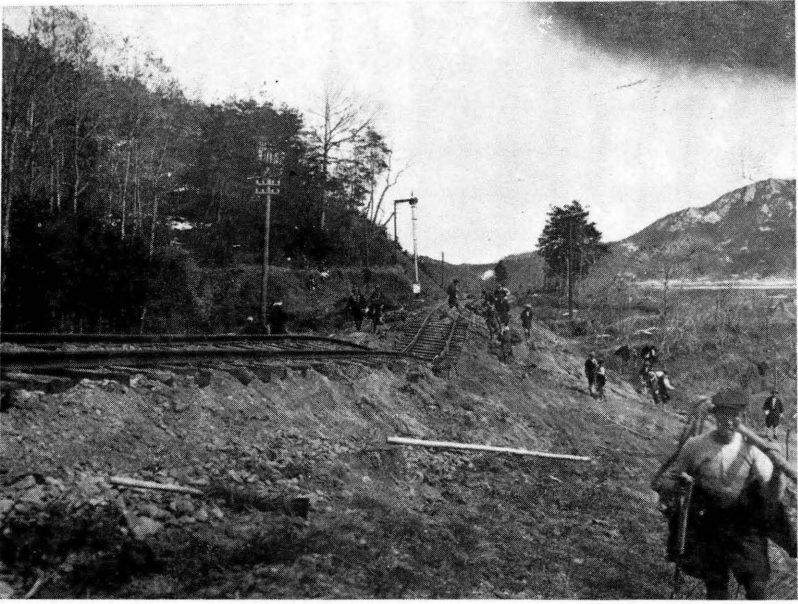
第十八圖

上山田城山隧道山田斷層附近の鐵路



第十九圖

上山田より約十町山田斷層附近の鐵路



第二十圖

峯山街道附近の道路龜裂



第二十一圖

岩瀧口へ現はれたる山田斷層

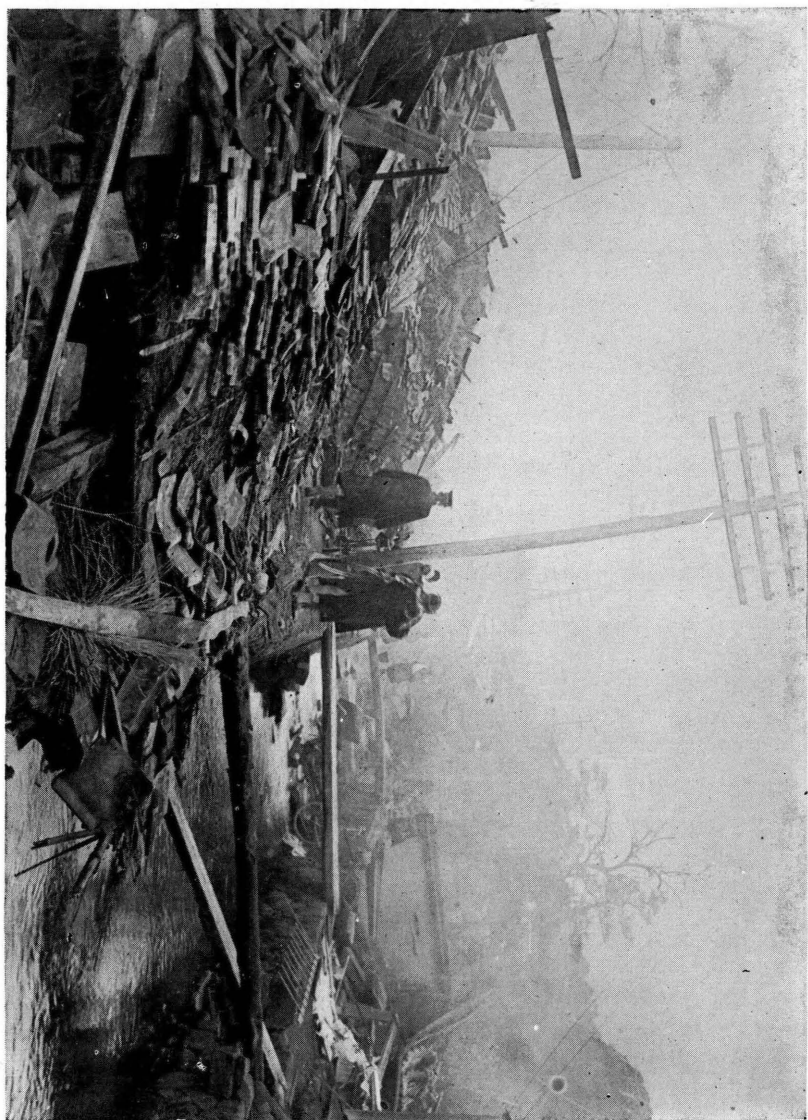


第二十二圖

加悦町の人家倒潰



第三十三圖
三河内道路に沿へる人家の倒潰

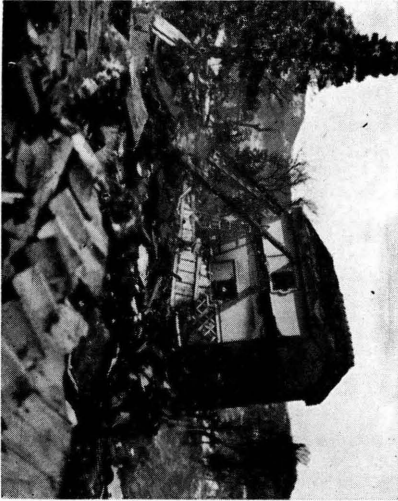


第二十四圖



全燒の峯山町全景

和達、加藤踏查地寫眞(自第二十四圖至第四十八圖)



峯山町燒跡
第二十六圖



峯山町、銅像倒る(方向西)
第二十五圖

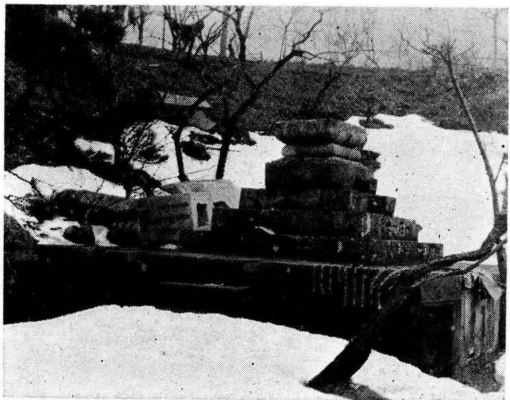
第二十七圖

峯山町、鐘樓の倒潰(方向北東)



第二十八圖

網野町、石燈の轉倒(方向東)



第二十九圖

口大野村石燈の轉倒(方向東)



第三十圖

網野町の被害



第三十一圖

山田村家屋の破損



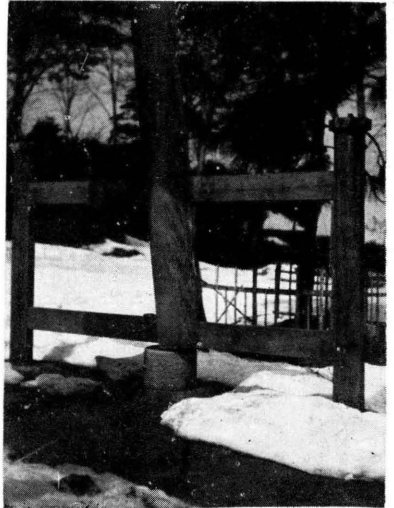
第三十三圖

木津村の鐘樓の轉倒(南南西に倒る)



第三十二圖

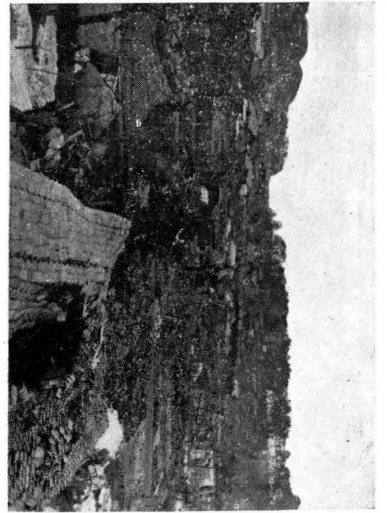
口大野村鳥居ずれる





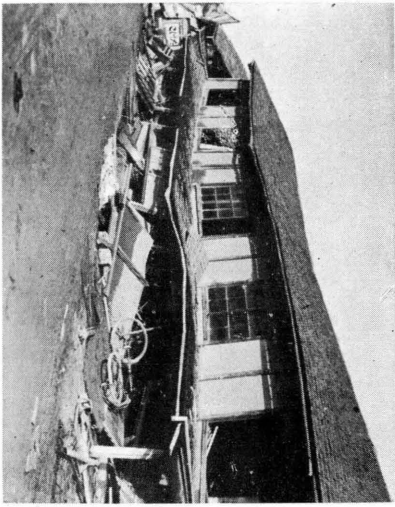
網野町の被害

第三十六圖



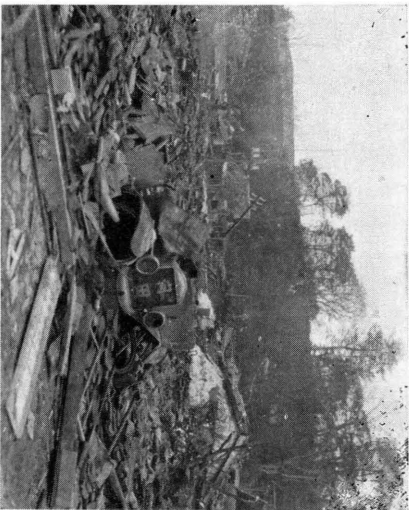
網野町の被害

第三十四圖



山田村の被害

第三十七圖



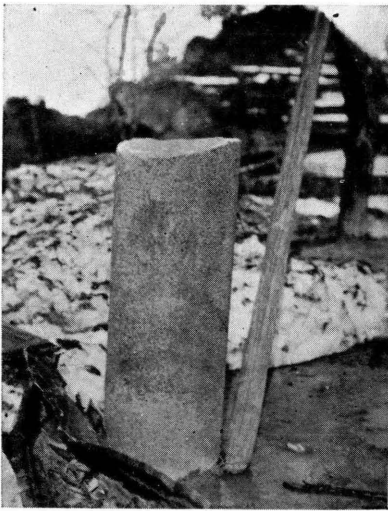
網野町の被害

第三十五圖

第三十八圖
山田村の被害



第四十圖
峯山町神社鳥居折れる



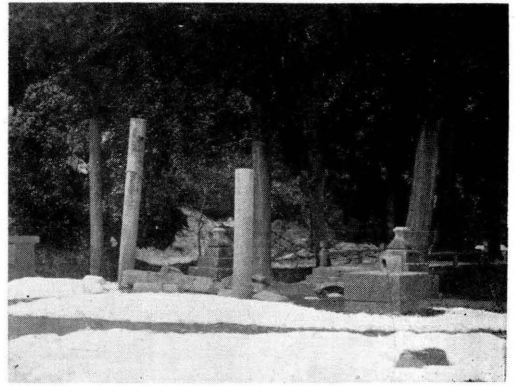
第三十九圖
口大野村の被害



第四十三圖
久美濱、鐘樓すれる



第四十一圖
木津村鳥居石塔轉倒(方向北)

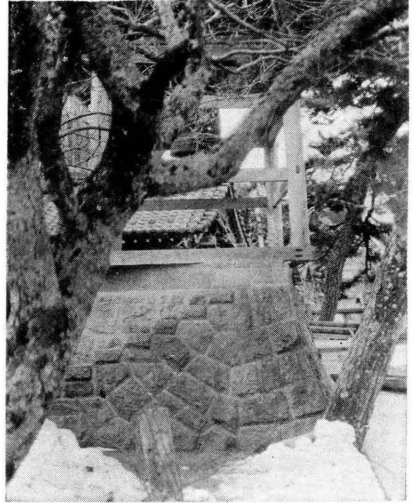


第四十二圖
木津村中館石塔倒る(方向南)



第四十四圖

久美濱鐘樓すれる



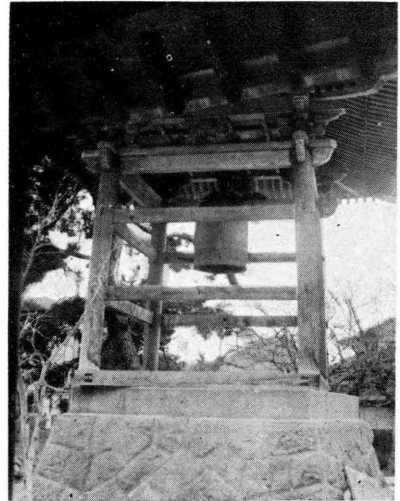
第四十六圖

網野町附近の山崩れ

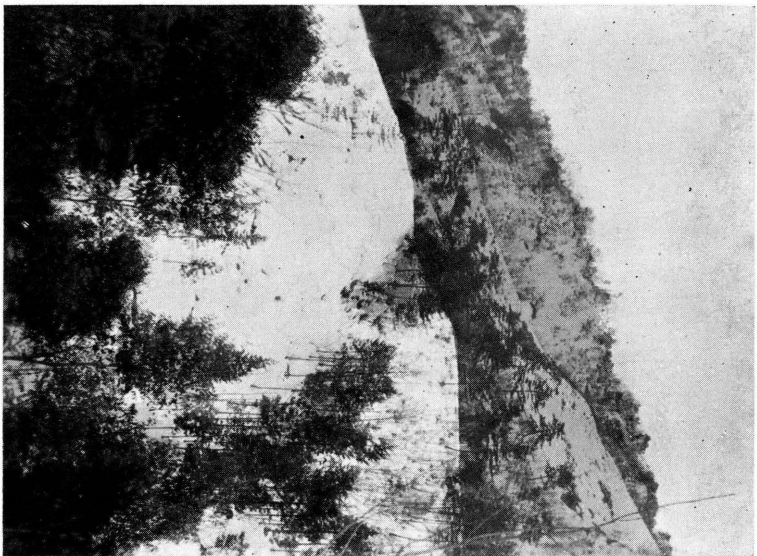


第四十五圖

同 上



第四十八圖



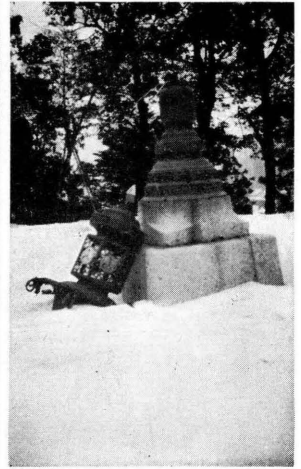
河梨峠雪割れ

第四十七圖



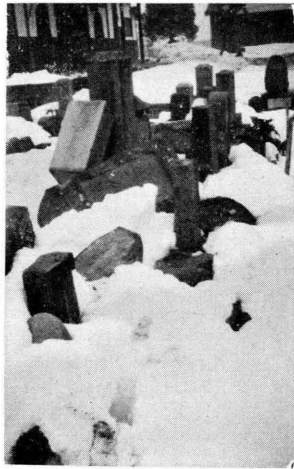
峯山附近の地割れ

第四十九圖



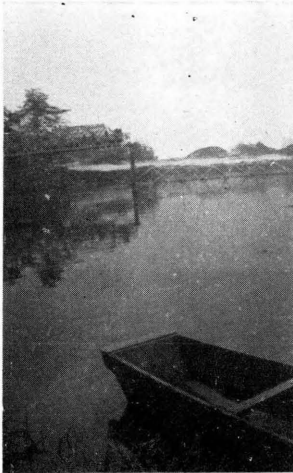
燈籠

第五十一圖



墓石

第五十三圖



京口橋遠影

第五十圖



御與庫

第五十二圖



京口橋

第五十四圖



岩屋小學校運動場

八、八、棚橋報告附圖（自第五十五圖至第六十四圖）

第五十五圖

郷村南入口より網野町淺茂川方面を望む



第五十六圖

郷村役場前道路に於ける斷層



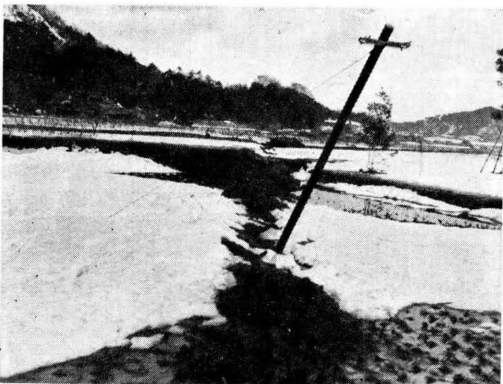
第五十七圖

郷村より公庄に至る里道の之れ



第五十八圖

斷層直線狀に走る（郷村役場裏にて）



第五十九圖

郷村北入口にて斷層道路を切る



第六十圖

斷層線上の家屋倒潰狀況



第六十一圖

斷層竹藪を横切る(高橋村にて)



第六十二圖

高橋北入口で斷層道路を横切る



第六十五圖

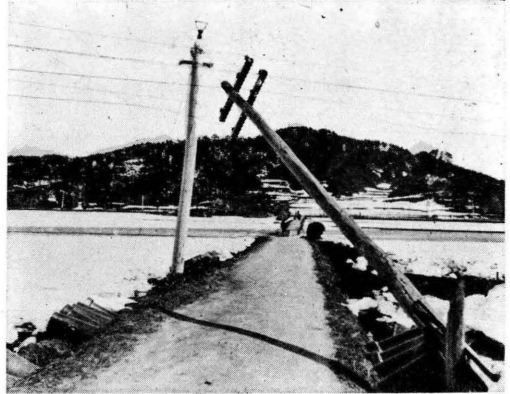
市場村八幡神社燈籠の
臺石の割れたるを示す



高谷、一木報告附圖(自第六十五圖至第六十八圖)

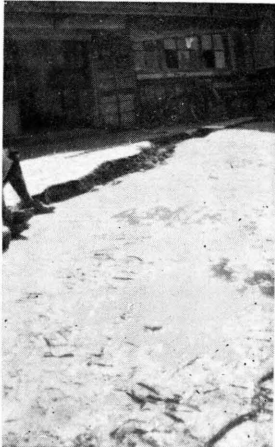
第六十三圖

下岡街道より網野街道に通ずる道路の陥没



第六十六圖

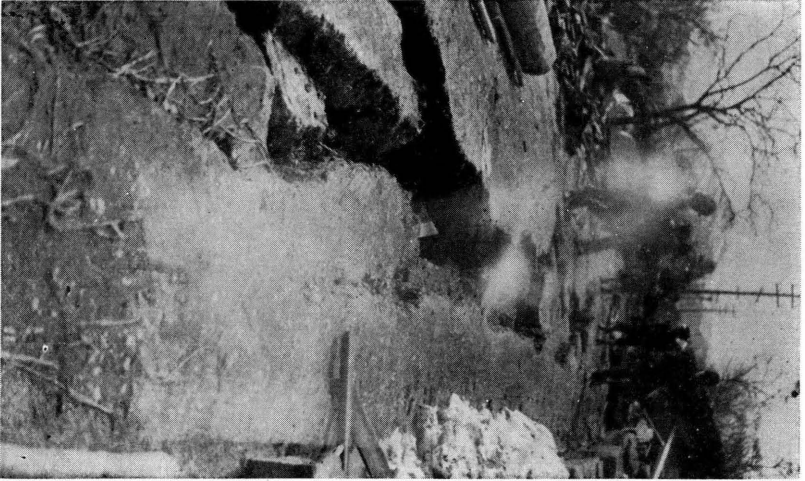
岩瀧町海岸の大地割
方向北二十度西
幅二尺五寸長さ十間



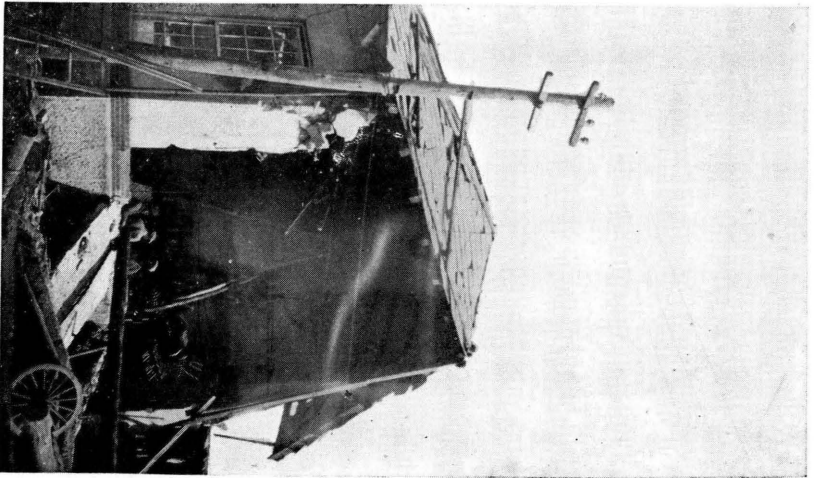
第六十四圖

小濱離湖岸沈下の狀





第六十八圖
下山田大地割
(幅₂三尺五寸、方₂向北七十度、長₂八十二尺、深₂三尺)



第六十七圖
山田村變電所

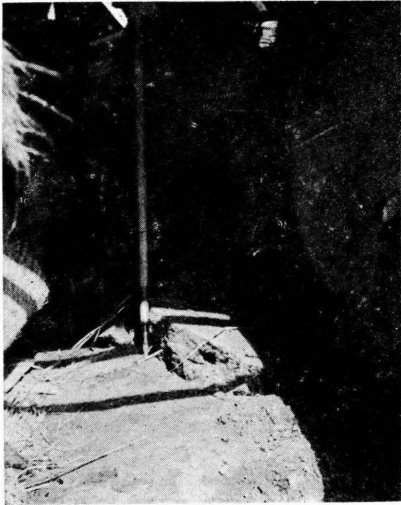
第六十九圖

郷村斷層池部茂右衛門氏宅前



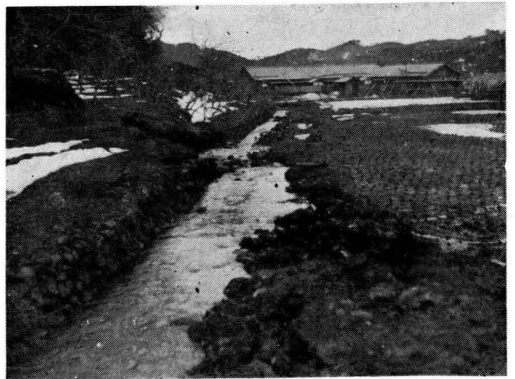
第七十圖

斷層線人家の下を通る



第七十一圖

高橋山際を流るゝ小川の移動



第七十二圖

郷村入口斷層段違ひ



第七十三圖

郷村より高橋に至る橋上より下流を望む、斷層川を横切る



第七十四圖

郷村斷層



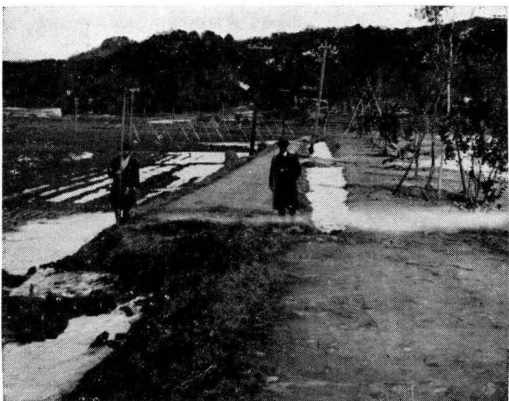
第七十五圖

郷村斷層道路の喰違ひ



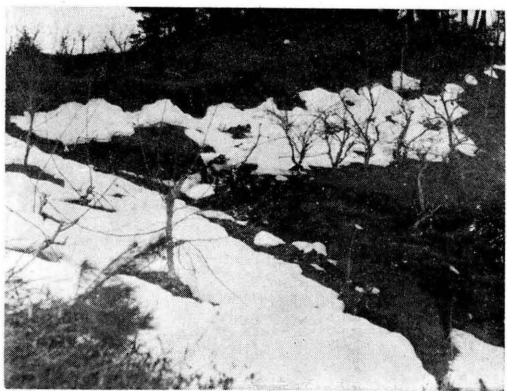
第七十六圖

郷村斷層道路の喰違ひ



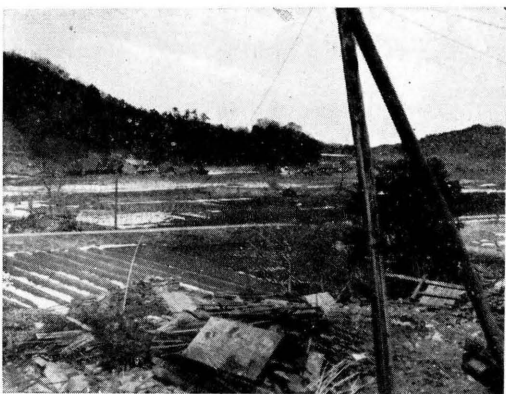
第七十八圖

御堂岡の喰違ひ



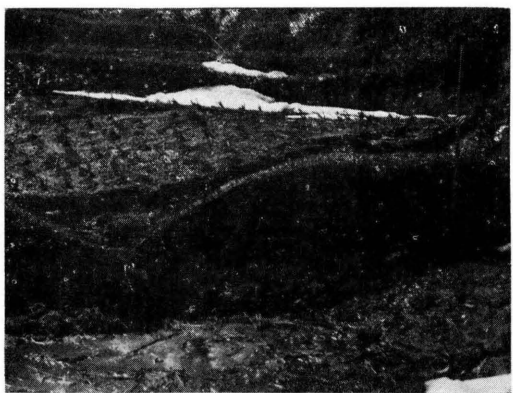
第七十七圖

郷警署前高臺より斷層を望む

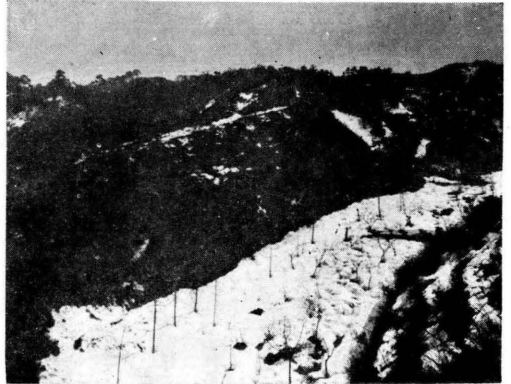


第七十九圖

郷村斷層上に當る水田、菅谷山奥



第八十圖
鄉村斷層菅谷奥



第八十二圖
鄉村斷層菅谷奥



第八十一圖
菅谷奥に於ける畦畔喰違ひ



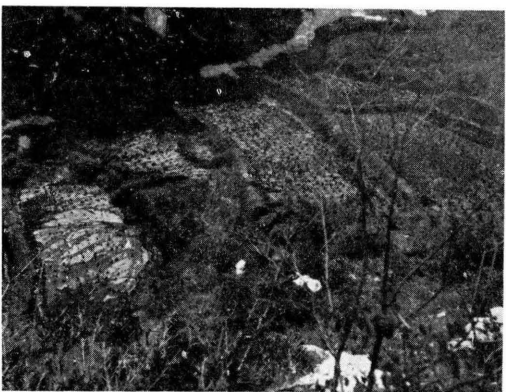
第八十三圖

菅谷奥に於ける
郷村斷層山田の中を走る



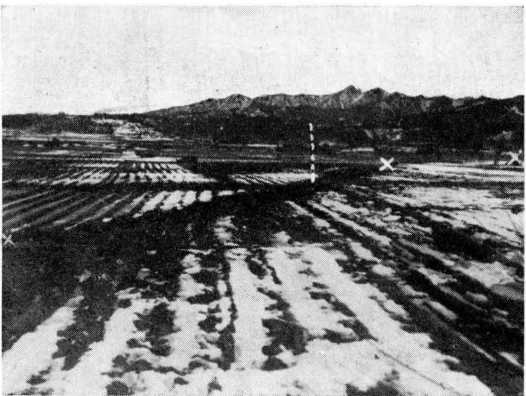
第八十四圖

都村斷層菅谷奥



第八十五圖

新治斷層



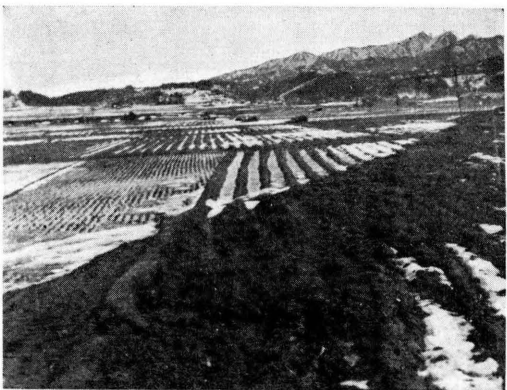
第八十六圖

新治斷層



第八十七圖

新治斷層



第八十九圖

網野街道の中央より北方田面の
陥没を望む



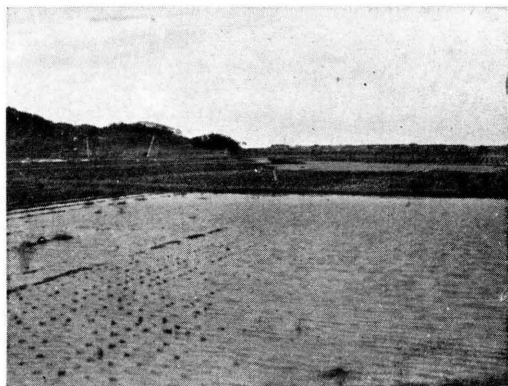
第八十八圖

新治にて斷層上の潰家



第九十圖

網野驛より網野町に向ふ途中
面の陥没



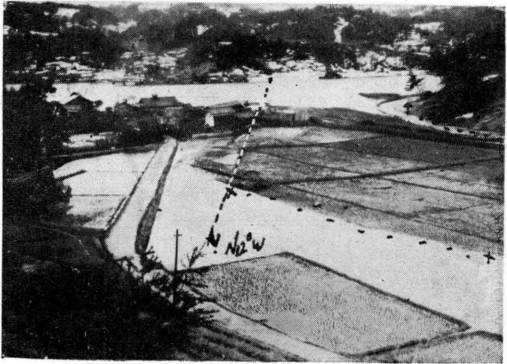
第九十一圖

網野驛より網野町に向ふ途中下岡に至る道路の陥没及屈曲



第九十三圖

木津の砂山陥没して川口を塞ぎ川上の田を湖と化す 點線は段違ひの線を示す



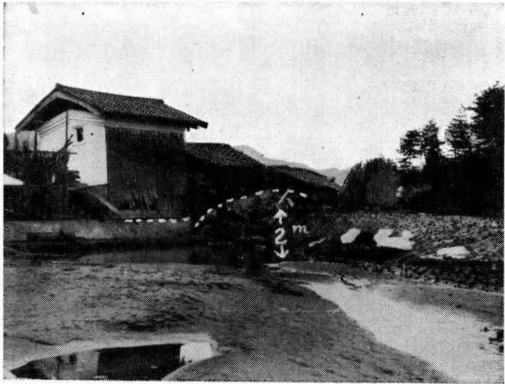
第九十二圖

淺茂川港町中土地の陥没



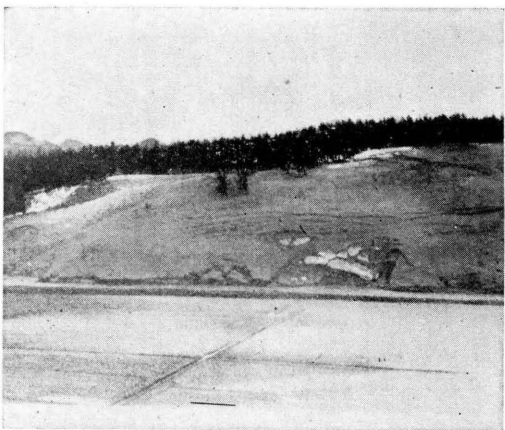
第九十四圖

木津の砂山陥没して田面の持上れる状 上圖點線上の一部



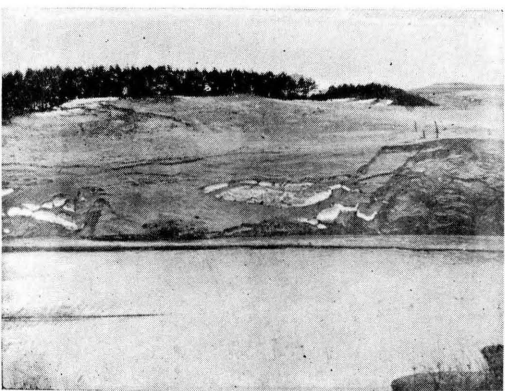
第九十五圖

木津村字上野砂丘の崩落



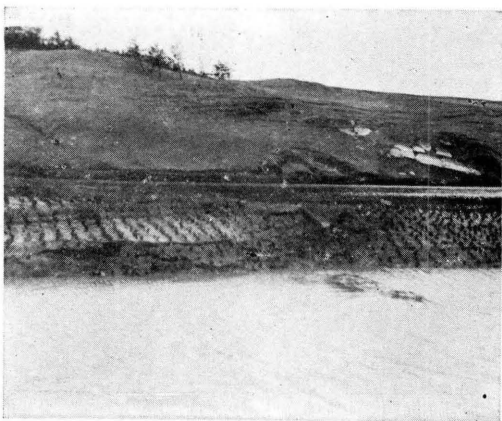
第九十六圖

木津村字上野砂丘の崩落



第九十七圖

木津村字上野砂丘の崩落と土地の隆起



第九十八圖

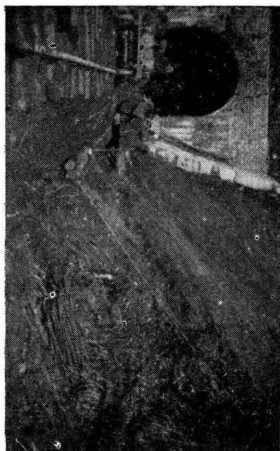
山田斷層隆道下の道路



第九十九圖
山田斷層



第一百圖
山田隧道東口



第一百一圖
山田斷層隧道東口崖



室伏、山崎報告附圖(自第二百二圖至第二百五圖)

第二百二圖

(附圖H點)岩の割れたる所
日本海岸の斷層



第二百三圖 (附圖F點)

淺茂川港西方道路に現れたる斷層



第二百四圖

(附圖E點)

淺茂川西方小山々麓の斷層



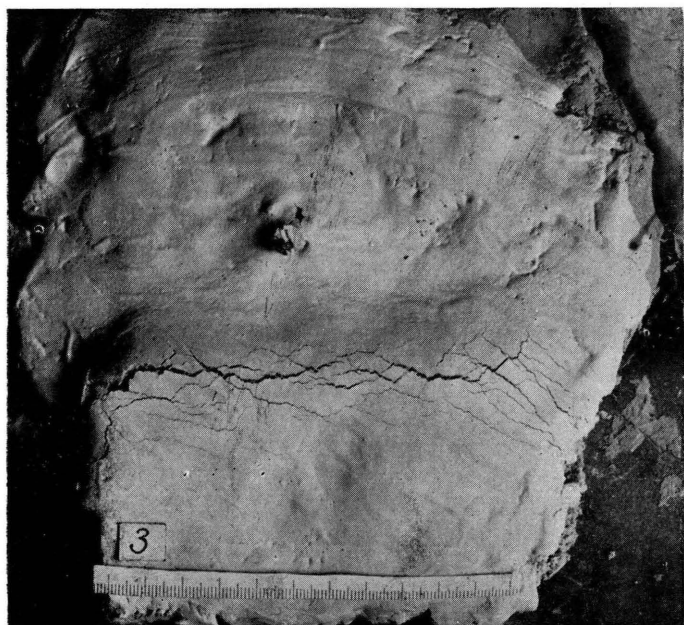
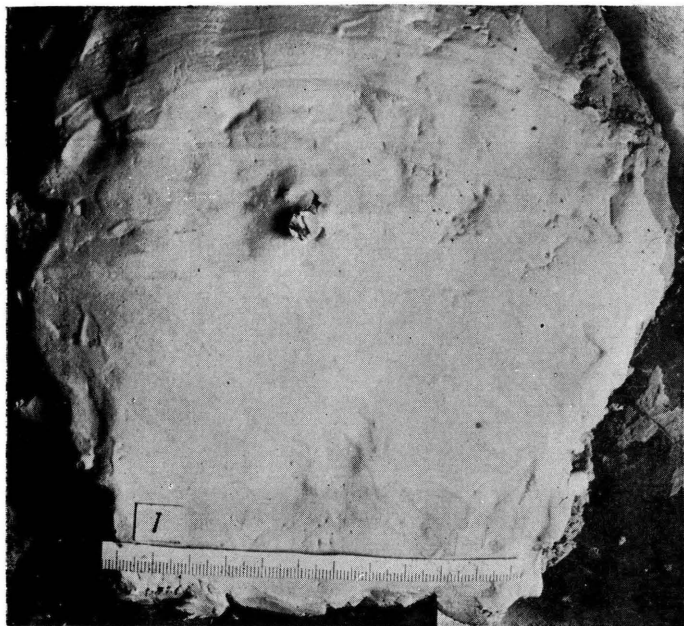
第二百五圖

吉原村小學校(新治)北方田甫中の斷層



第百六圖 (藤原、高山報文附圖)

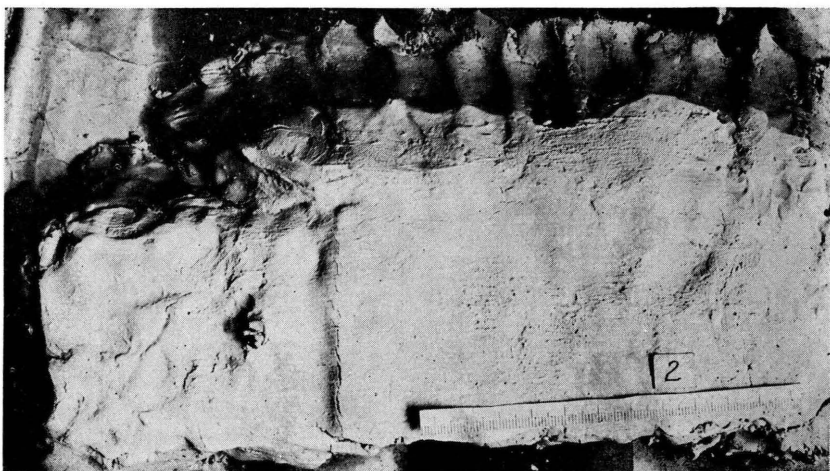
歪みを伴はざる不連続運動の境界の割れ目、(1)原形(3)一旦兩ブロックを上げ、後向ふ側のものを丈を釘頭を押しして落す。
山田村役場附近裂罅群は此性質著し、即南東北西に走るものと北東南西に走るものと交互にあり雁行性質しからず、東西
のみあり。



第 百 七 圖 (藤原、高山報文附圖)

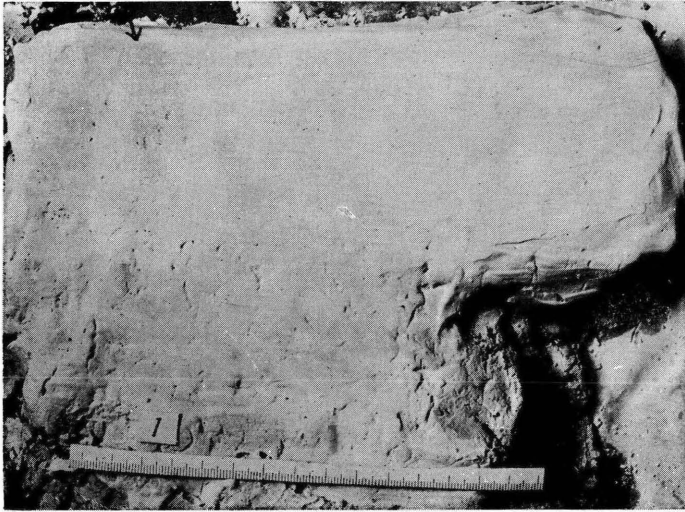
(1)隆起した二つのブロックの中一つ圖左側のものを釘の頭を斜め手前方に押し下げて生じたる裂罅群、

之を所謂鄉村斷層と比するに至みの運動の方向は同じけれ共雁行の向きは逆となる。是は正、彼れは負となる。是當然にして此種のブロック運動の爲には其接觸部の表面層は面積を増す即引き展ばさるゝ爲なり。



第百八圖 (藤原、高山報文附圖)

プロックの水平移動の實驗、(1)原形左り側のプロックを矢の方向より押す(3)依りて生じたる裂罅。プロックの境界面は迂り得る爲に四十五度に切り、左り側が右側に衝上する様になりあり、生じたる主雁行は負にして、歪の方向も負、實際と一致す、而して押したる方向が迂り面に向ふ故に明に壓縮なり。尙注意すべき點は第二次裂罅ある事及迂り面は殆んど巾なきに關せず裂罅は帶狀部に於て現はれ居る事は或は網野附近に見たる帶狀傾向を説明し得るものか。



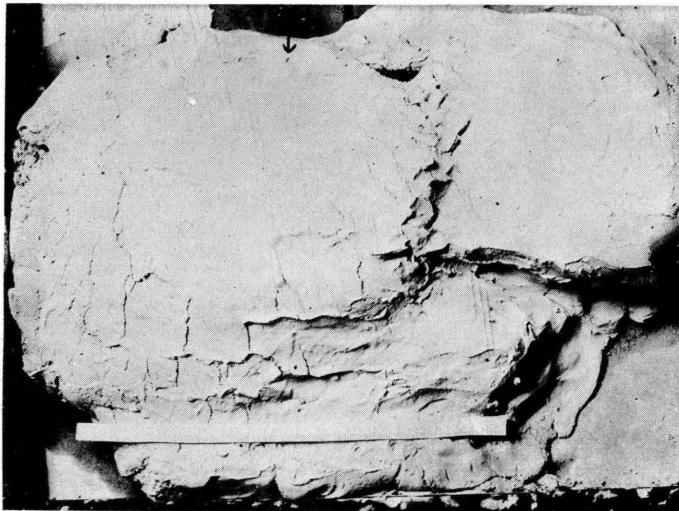
第百九圖 (藤原、高山報文附圖)

(1) 原形(4) 矢の方向に押した所、第百八圖と同様只押す方向と入り面の方向約十度なり。二列帯状更に著し(網野附近別稿第八圖)又山田斷層として多田理學士の調査したものさ似たものもあり。是も壓縮微歪裂綫。此模型は少し上を左りに廻轉して見られたし。(4)の左端に上野濱詰の裂綫に比す可き様のものも見ゆ。

(1)

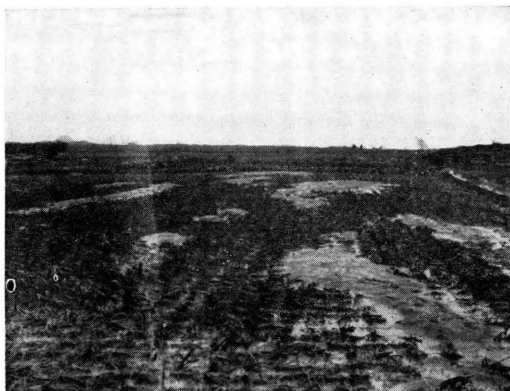


(4)



第 百 十 圖

男山地先海岸噴砂孔列、道路上より北東に向ひて撮す(昭和二年四月十四日降雨中)遠景微かに煙るは橋立及江尻方面にして其手前は海面なり。噴砂孔は所謂泥火山の形をなし列をなして北十五度東に向ふ數條平行す。



第 百 十 一 圖 (乙)

乙圖は甲圖右下部にある壠狀隆起を近よりて東に向ひて撮す、人物は岩見技手、土壠の高さは六十一種、遠景の山は堂谷背面の山なり。



第 百 十 一 圖 (甲)

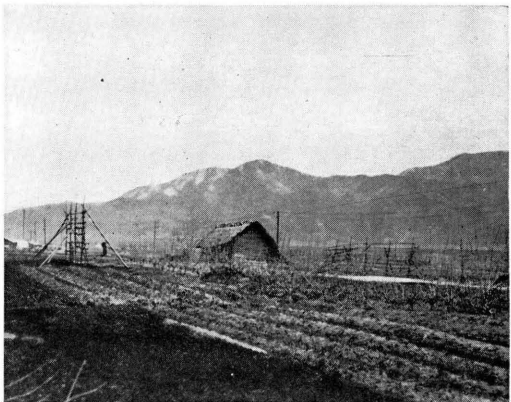
山田村役場東の田面陥没裂罅、本文中第二圖の(4)なり、西に向ひて撮る前面は役場及學校の敷地をバラツク及破れ残りの便所。



第百十二圖 (藤原、高山、岩見踏査報告附圖)

本文中第二圖(8)の裂罅、甲水平に四尺の移動を示す、東に向ひて撮る昭和二年四月十八日圖の中央小屋の周圍は桑畑其手前は稻田に墾を作り蠶豆を植えあり、行數四本にして其中央部に於て斜横に斷層的裂罅あり是に沿ひて向ふ側即北東側が左即北西方に手前側即南西側が南東に移動し食ひ違ひは四尺なり、一番左り側の行が本來一直線に連続しありたるものなり。乙圖は近より撮す、割れ目に水を湛えあり、人物の踏みある行は割れ目を距て、其れと略連り居る行よりも一行右側の行と元來は連り居りしものなり。

甲



乙



第百十三圖(同右)

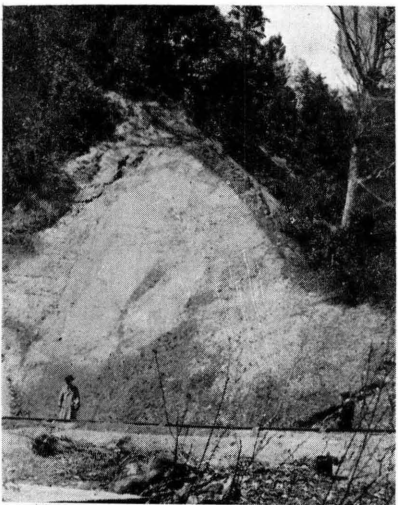
山田村鐵道線路北側山腰切り取り面上の裂罅、本文中第二圖(12)新割面生じあり、二り面の走向、北六十二度西傾斜下四十二度東北滑りの方向見かけ上北東側下南に落ちる。人物の位置を下右より上左りに黒き一線あるが滑り面と岩面との交線。人物の頭の上に横に一線の凹みあり、其部に於て滑り出しを見るを得たり。



第百十四圖 (藤原、高山、岩見踏査報告附圖)

城山トンネル東口北側切取岩面に現はれたる裂罅、甲全面、略平行して上下に二條あり、前景は鐵道レール。乙圖は下部のものを近くより撮る、昭和二年四月十八日甲圖岩面の向ふ側に黑色斜面の見ゆるは赤土の崩落面なり、裂罅に稍雁行性見ゆ向きは正なり。

甲



乙



第百十五圖 (右同)

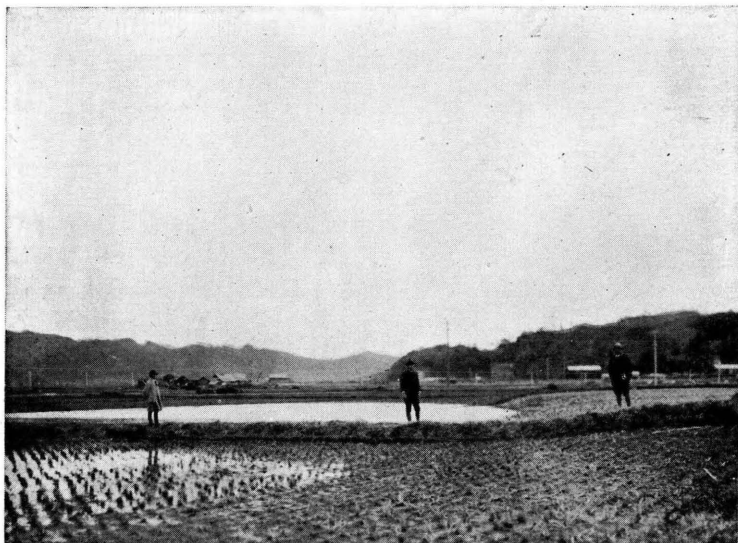
網野南方丘上の裂罅、本文中第三圖(7)立ちて地面に腕を載せあり、膝の邊に見ゆる地面は前方にあるものにて其部分の割れ目の底は遙に深く圖には見へあらず、略南に向きて撮る、昭和二年四月十六日



第百十六圖 (藤原、高山、岩見踏査報告附圖)

甲 網野驛北方田面の高低と 乙 其れに伴ふ小裂罅、甲圖右側と中央の人物の中程に断面を露はさざる不連続線あり、左側即東側は沈下、水を湛へ西側は隆起す、背景中央の丘は網野驛南の丘にて第百十五圖の割れ目は此丘の脊を縦に割りしものなり。丘の附近に見ゆるは停車場及附近のパラック。乙圖の裂罅は不連続線に對して北西方に射出し、正の雁行をなすもの、部なり、故に此割れ目は展張裂罅なり。

甲

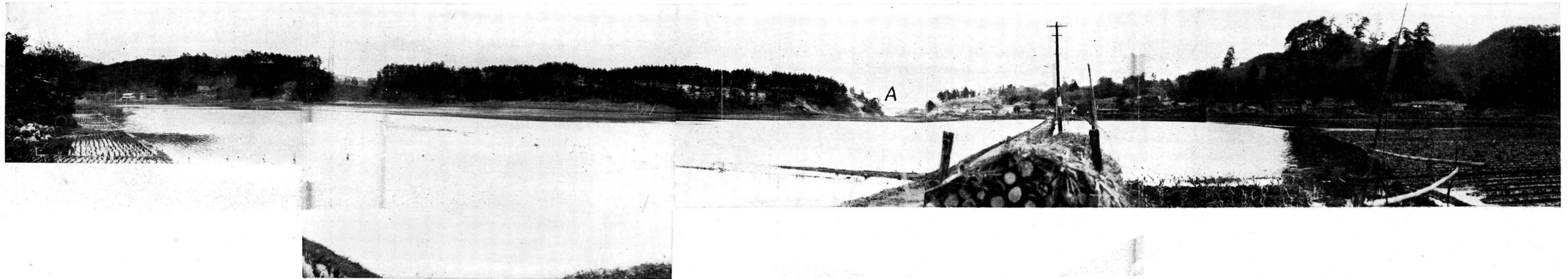


乙



第 百 十 七 圖 (藤原、高山、岩見踏査報告附圖)

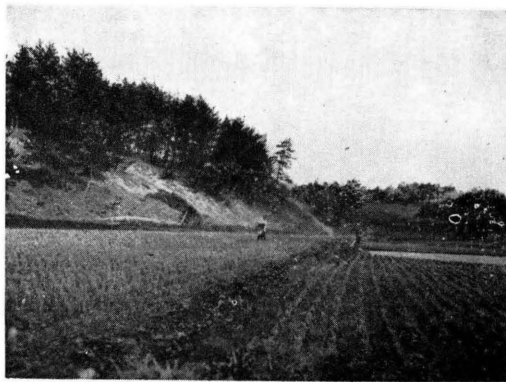
木津村の滞水、圖の中央部前方の丘低くなり木のなき所に谷間Aあり。右側山沿ひの上野部落に沿ふて流るゝ小川と圖の左端俵野より來り山腰を繞りて北に流るゝ小川と此谷間に合して海に入る。海は圖の中央より左手の松の有る砂丘即「上り山」の向ふ側に在り、此寫眞は木津温泉場より上野部落に行く道と俵野道との分岐點附近にて北に向ひて撮る(昭和二年四月十七日)此水面の部分は震災前は良田なりしが地震の際に「上り山」の東側の谷に臨む斜面の崩落と其南方谷の入り口より「上り山」の腰に沿ひて地盤の隆起ありしとの爲に水路を斷たれ急激に浸水し、一時は温泉場附近迄も浸水したりしが、崩落したる砂は幾程もなく水に流れ去りて河床を露したる爲に及人工にて隆起部に新に河床を掘鑿したる爲に稍減水したるも尙此圖に示す程度の湖沼を存しあり。



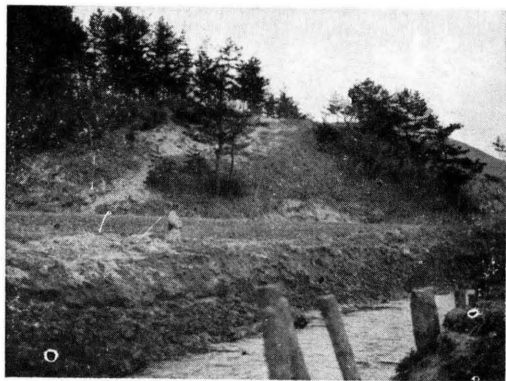
第百十八圖 (藤原、高山、岩見踏查報告附圖)

甲 「上り山」の南に於ける斷層的高低。水面は滯水の一部なり、元來水平なりし田面が三尺の高低差を生ず、段違ひ線の方向は略南北なり、此線の北方延長上に崖崩れ見ゆ、此崖は赤土にして崩落面を直角に割る割れ目あり其市約一尺此崖崩れよりも手前の田面に同方向に更に大なる高低差を生じたる所あり。(第九三圖参照)
乙 圖は減水を計る爲に人工にて堀りたる川なり圖の小山と人物との中間に見ゆる田面は山形に隆起しあり。

甲



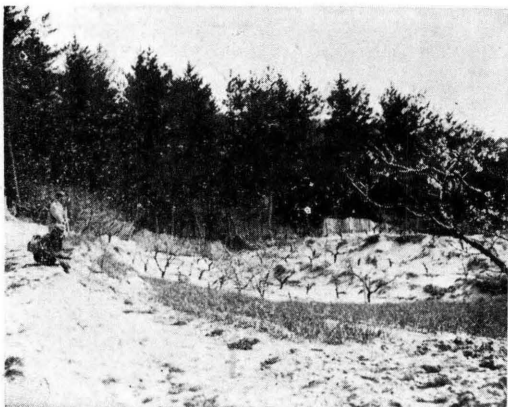
乙



第百十九圖 (右同)

「上り山」砂丘上の陥落、甲桃林にて略水平に近く左り側より右側に斜下しありたるもの、地震の爲に見るが如く大陥没をなす、階段畑の如く見ゆるもの元は一平面内に有りしものなり、乙 同所松林中の陥没による段違ひ、高低差一丈餘。

甲



乙



第百二十圖 (藤原、高山、岩見踏查報告附圖)

鹽江海岸の隆起、甲東岸玄武岩の如し、乙西岸子持岩、白色に見ゆるは震災前最低干潮面以下にありたる牡蠣殻なり寫眞撮影の當時の水位は平常よりも高き方なりしと云ふ。白色部の高さ約二尺五寸。

甲



乙

